

異教的主題

古代の異教文化が「再生」された時代で、キリスト教的主題と異教的主題が共存し、均衡と調和が保たれていた。コッサのスキファノイア宮殿フレスコ画、ボッティチェリ《プリマヴェーラ》《ヴィーナスの誕生》、ラファエッロ《アテネの学堂》など。

透視図法の確立

レオン・バッティスタ・アルベルティ『*De picture*, 1435年)

・透視図法の理論家としてのアルベルティは、絵画を「開かれた窓」になぞらえ、それを「まさしく透明でガラスのようだ *admodum vitrae et perlucida huiusmodi*」と形容している。

→画面＝透明なガラス、額縁＝窓枠

・直立した人間の1個の目を頂点とする視覚ピラミッド。その視覚ピラミッドを、平面で垂直に断ち切ったときの裁断面。それが絵画の画面となる。

美術と自然との関係

・自然を尊重し、自然主義的に描く。・自然を尊重するが、自然主義的に描かない。
・自然を尊重しないが、自然主義的に描く。・自然を尊重せず、自然主義的に描かない。
ジョルジョ・ヴァザーリ『*Le vite de' piú eccellenti architetti, pittori, et scultori italiani, da Cimabue insino a' tempi nostri*, 1568)

総序

第1部 自然に近づいた時代

第2部 自然と同等になった時代

第3部 自然を凌駕した時代

北方との美術交流

・北方の油彩画がイタリア各地の君主や大市民によって所望購入される。北方の画家がイタリアに滞在したこともあり、北方風の人物描写、背景描写がルネサンス絵画—ギルランダイオ、ピエロ・デッラ・フランチェスカ、アントネッロ・ダ・メッシーナなど—に見られるようになる。
・ヨース・ファン・ヘント《使徒たちの聖体拝受》、ロヒール・ファン・デル・ウェイデン《キリストの埋葬》、フーゴー・ファン・デル・グース《ポルティナーリの祭壇画》などが注目される。